平成 25 年度　学校評価総括表　伊丹市立南幼稚園

教育目標	心も体もすくすくと、笑顔あふれる幼稚園
重点目標	園と家庭・地域が連携しあい、幼児が心を動かし表現しようとする姿を支える教育を推進する。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	自ら表現しようとする力を育む教育の推進	・心を動かし表現しようとする姿を支える保育を実践する。	・園内研究会を学期に 2 回程度実施し、幼児が心を動かし表現しようとする姿を支えるための教師の役割について研修し合い、日々の保育実践に生かしていく。	・保護者アンケートにおいて、「子どもは、幼稚園に行くのを楽しみにしている」と回答した割合が 85%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子どもの発達や、興味関心に応じた保育を行い、子ども達の意欲や主体性が育まれるように努めている」と回答した割合が 85%以上になる。	B	・園内研究会は学期に 1～2 回実施し、保育を全職員で見直し研修に努めた。アンケート結果から、両設問共に 95%以上の高い評価が得られ、幼児が心を動かし表現しようとする姿を支える保育が行われていることが評価された。 ・次年度の研究発表会に向け、研究内容を分析し、実証していく必要がある。	・引き続き、園内研究会を全クラス、学期に 2 回程度行い、教師の保育実践力を向上させる。 ・保育計画について週に 1 回は協議を行い、意図した保育内容（環境）づくりに努める。 ・実践事例研究を重ねて行い、幼児理解とともに、教師の役割について分析し、保育実践に生かしていく。	計画に基づき、充実した保育実践が行われていることがうかがえる。
	特別支援教育の推進・充実	・計画的、組織的な支援体制を整備する。	・月 1 回、チューリップ学級便りを発行する。 ・必要に応じて、巡回相談や専門機関等、外部機関との連携を行う。 ・学期に 2 度、チューリップ学級対象児保護者に個別指導計画の開示及び個人懇談を行う。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、一人ひとりを受け止め、理解し、個々に応じた指導を行っている」と回答した割合が 85%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、特別支援教育についての理解を深めるため、チューリップ学級便り等を通して保護者啓発に努めている」と回答した割合が 85%以上になる。	B	・チューリップ学級便りの発行や個人懇談等を計画的に行い、保護者啓発と連携による支援体制づくりに努めた。アンケート結果から両設問とも 95%以上の肯定的な回答が得られ、計画的、組織的な支援体制が保護者に評価された。 ・必要に応じ巡回相談等、外部機関との連携に取り組んだ。今後も時機を逃さずに行い、体制強化に努める。	・今後も組織全体で個々の発達段階に応じた指導、援助を行うため、職員会議等で一人一人の特性や課題等について定期的に情報交換や協議を行う。 ・引き続き、便りの発行や懇談の実施に取り組むとともに、外部機関と適切な時機に連携が図れるよう情報の収集と職員研修に努める。	適切な推進がおこなわれ、体制整備に努められた。
豊かな心・健やかな体	健やかな体作り	・基本的生活習慣の確立に向けた保育の実践及び保護者との連携を行う。	・月 1 回保健指導を実施する。 ・年間 9 回けんこうカレンダーを実施する。 ・「いたみっこのおやくそくカード」の約束事を、園だより等の配付物に引用して保護者啓発をしたり、保健指導時に活用したりする。	・担任と養護教諭が連携し、日々の保育の中で、「いたみっこのおやくそくカード」を活用する。 ・保護者アンケートにおいて、「子どもは、基本的生活習慣が身につくように幼稚園生活の中でも取り組んでいる」と回答した割合が 85%以上になる。	B	・月一回の保健指導と、けんこうカレンダーの内容を関連させて実施することで、健康に関する目標を幼児が自ら意識して取り組む姿が多く見られた。 ・アンケート結果は 97%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 ・毎月、保健だよりやけんこうカレンダーを配付し、保護者との連携に努めた。今後は保護者からの意見等を生かし、実態に応じた指導内容を検討する。	・引き続き月一回の保健指導やけんこうカレンダーを実施し、幼児、保護者ともに健康的な生活習慣についての意識向上を図る。 ・各月の健康に関する目標に合わせた掲示物を活用すると共に、幼児の実態等を反映させた指導内容にしていく。また、けんこうカレンダーの「保護者からの意見欄」を工夫して各家庭での実態を把握する。	今後も家庭との連携を深め、子どもの健やかな体作りを推進していくことが望ましい。
	豊かな心を育む教育の推進	・生命の尊重、規範意識の向上(形成)を目指す。	・幼児の実態に合わせて「いたみっこのおやくそくカード」を保育の中で活用し、豊かな心を育む教育を推進する。 ・小動物の飼育や植物等の栽培などを年間通じて行い、命の大切さや温かさに気付かせていく。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や、自然や虫、飼育動植物などの命あるものに触れる中で、子どもが命の大切さを感じるための保育を行っている。」と回答した割合が 85%以上になる。	B	・年間を通じて飼育栽培活動を行い、命にふれる機会を計画的に保育に取り入れ、実践した。 ・アンケート結果は、99%の高い評価が得られ、生命を尊重しようとする心が、日々の保育の中で育まれていると評価された。 ・保育の中での「いたみっこのおやくそくカード」の有効な活用方法について、再度検討していく。	・幼児の実態に応じて、保育の中で、「いたみっこのおやくそくカード」を学期に 1 回以上、活用する機会を設ける。 ・今後も飼育栽培活動を計画的に取り入れ、豊かな心を育む保育実践に努める。	引き続き、心を育む教育の推進をお願いしたい。

開かれ信頼される学校園	園情報の積極的な発信	・積極的に園情報を発信する。	・月１回クラス便り、学期に 1 回園長便りを発行する。 ・自園のホームページ（ＨＰ）を月１回更新する。 ・月１回、掲示板を活用し、写真等で園の情報を発信する。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、施設や設備を有効に活用し、遊びを通して学ぶ場として、子どもが活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が 85%以上になる。 ・自園のＨＰ、掲示板を月 1 回更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、『子どもが心身ともに健やかに生活してほしい』という保護者の願いに応えている」と回答した割合が 85%以上になる。	B	・クラスだよりや園長だより、ＨＰや掲示板を活用し、園情報を定期的、積極的に発信した。 ・アンケート結果は、両設問共に 99%の高い評価が得られ、園情報の積極的な発信により、園の取り組みが評価され、幼稚園教育に対する理解が促進された。	・クラスだよりや園長だより、ＨＰや掲示板を有効に活用し、引き続き、園情報を積極的に発信していく。 ・ＨＰの更新については、引き続き月の担当者を決め更新に努める。	今後も地域に根ざした幼稚園として、様々な園情報の発信に努められたい。
今日的課題に対応した幼児教育の推進	今後の幼児期の教育のあり方の研究	・家庭・地域と連携しながら、教育時間終了後に行う教育活動の充実を図る。	・教育時間終了後に親子の遊びの場の提供として「あつまれみなみっこ」を、年間７回実施する。 ・教育時間終了後に保護者支援として「のびのびタイム」を学期に１回実施する。	・「あつまれみなみっこ」のアンケートにおいて、「参加してよかった」と回答した割合が 85%以上になる。 ・「のびのびタイム」への参加割合が、85%以上になる。	B	・「あつまれみなみっこ」に関するアンケート結果(1 学期末)は、「保護者にとって子育て情報交換の場になった」との項目において約 85%の高評価が得られた。また、のびのびタイムの参加率は毎回約 95%あり、保護者支援が図られた。両結果から、教育時間終了後に行う教育活動が保護者に高く評価された。 ・アンケートの自由記述欄の意見等から、親子の遊びの場、子ども理解の場、保護者と教師の連携の場となっているとの評価が得られた。 ・今後も、幼児の育ちを支えるための教育時間終了後の教育活動のあり方を検討していく。	・引き続き、「あつまれみなみっこ」や「のびのびタイム」の目的や内容、回数等を再検討しながら実施する。 ・「のびのびタイム」については、興味関心を広げる機会として地域力を活用した内容を実施し、地域との連携を強めていく。 ・「あつまれみなみっこ」については、保護者の子育て力の向上や幼稚園教育への理解推進につながるよう、今後も「あつまれみなみっこ便り」を毎回発行していく。また、定期的にアンケートを実施し、保護者の意見に耳を傾け、願いに答えながら幼児の成長を共に支えていくようにする。	子育て支援に熱心に取り組まれている。子どもにとって有意義な時間となるよう、今後も研究を継続されたい。

学校関係者評価総括

教育活動の充実に向け、職員が一丸となって取り組んでいる。引き続き、地域、家庭との連携を密にしながら保育実践されることを期待する。

次年度に向けた重点的な改善点

1　教育課程の再構成を行うとともに教職員の資質向上を図る。
2　幼児の体力向上にむけ、保育活動を工夫する。
3　市指定研究会に向け、「表現しようとする子どもの育成」に取り組む。

自己評価の基準　　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った